



平成26年7月1日現在

世帯数	945戸
人口	2,464人
男	1,227人
女	1,237人

ホタル学習会

7月4日

私の子どもの頃は、昭和三十年代。家の周りで、簡単にホタルが見られました。畑のネギを千切って、その中に捕ま

えたホタルを入れたもので

レイチエル・カーソンの「沈黙の春」が昭和三十七年、有吉



まずはホタルについての学習

佐和子の「複合汚染」が昭和五十年に出版され、環境汚染に警鐘を鳴らしましたが、心配された通りになってきています。

信大の藤山先生が学習会で強調されたことも、「ホタルも住める良い自然」ということでした。いろんな環境が整ってれば、ホタルはほとんど出てくるそうです。

私が子どもの頃、家の周りで見ていたのはへ



ホタルの観察

イケボタルのようでした。水田の中の生き物を取り戻すのが大事だというお話でしたが、簡単にはいかないと思いました。

さて、いよいよ外に出ての観察です、松本ホタル学会の百瀬丘さんのお話では、「五日ほど前の六月二十九日がゲンジボタルのピーク、ヘイケボタルはまだ出始め。端境期だ。」と言うことでした。

塩沢二号橋付近に近付くと、たくさんではありませんが結構な数のゲンジボタルを見ることができました。観察会に集まった約七十人みんなが、幸せなひと時を過ごせたように思います。同時に、自然環境の保全について考える良いきっかけとなりました。

第五町会 丸山宇一

内田史跡めぐり

6月21日、前日からの雨が心配されましたが、それもよそに子供達や市民タイムスの記者も参加して、総勢二十数人あまりで「内田史跡めぐり」(北側)が行われました。内田地区に住んで二十数年になります。知らない史跡が数多く存在していることを知りました。

あの有名な「浅田飴」の社長さんの祖先?の「浅田城址」や、普段バイクで通っているのに全く気がつかなかつた「内田のアカマツ」、「秋葉大権現」や「丁石」、中でも特に牛伏寺までの方向と距離(1丁は約110m)を示す「丁石」は大変面白いと思いました。

馬場家住宅では、入場が有料のところを特別に無料で入らせて頂いて、当時の生活の様子や近くの遺跡の資料も見ることができ、この地がはるか昔から人が住み、



栄える条件を揃えた地域であることが判りました。

史跡をめぐる途中、道中であの紫の「桑の実」を見つけ数十年振りに美味しく食べました。当時は夢中で食べたものです。

今回の史跡めぐりは季節も最高で、ウォーキングも兼ねていて、万歩計をしていた方によると「7300歩」歩いたそうです。毎年行われるそうなので、みなさんも参加してみたいかがでしょうか。

第五町会 林 嘉秀

鉢伏山山頂で雨乞いの神事

内田財産管理委員会と南内田区は、六月十五日、鉢伏山(二九二九メートル)山頂の鉢伏神社奥社に集まり例祭をおこなった。例年この時期におこなわれている雨乞いの神事



鳴雷神碑前での神事

で、百年以上続いている伝統のあるお祭りである。内田地区と南内田区が毎年交互に当番区となり祭礼の準備をおこなっている。今年も南内田区が当番区であった。風もなくすがすがしい晴天に恵まれ、山頂での神事は午後一時より始まった。祭神は「木花咲耶媛」、女神である。この神は春になると里に下りる「農耕の神・水分の神」である。雪が来て冬になれば山に帰り「山の神」となる。(里



鉢伏山頂での神事

には、前鉢伏神社があり十月祭典をおこなっている。) 鉢伏山は水を平等に分け与えてくれる山として、古人の信仰の対象となり、鉢伏大権現ができた。農耕の神・水分の神として重視されたのが雨乞いの行事である。阿禮神社の宮司により神事は進められ、石造りの奥社の前で役員、来賓合わせて三十数名が頭を深くたれ、雨が降りるのを願った。今年六月に入り降雨があり、ため池にも水は貯えられている。しかし、今後の天候次第では干天の心配もあり、雨乞いの行事はいつても、真剣な気持ちにさせられる。お願いした雨は、その夜にわかには降り出し、神の御恵みに感謝した。

内田財産管理委員会
百瀬 進

真剣な中にも笑顔あり 球技大会

恒例の球技大会が開催されました。

今年も野球で2リーグ制を取り入れ、例年とは違う球技大会となりました。

なお、成績については後述のとおりです。

軟式野球

- 優勝 第5町会
- 準優勝 第9町会
- 第3位 第2町会

ソフトバレーボール

- 優勝 第5町会
- 準優勝 第2町会
- 第3位 第9町会

ゲートボール

- 優勝 第3町会
- 準優勝 第5町会
- 第3位 第1町会



日本タンポポを 守り 育てよう



春の花といえば、スミレ、タンポポ、レンゲ草が私たちの子供の頃代表する花でした。今もタンポポは春の野山を黄一色に染めています。子供時分に慣れ親しんだ日本タンポポを見つけて出すことができません。身近に咲いているのは外来種の西洋タンポポで、日本タンポポは絶滅の危機にさらされています。数年前のことですが安曇野の日本タンポポが絶えてしまうと訴えた方がおりました。その時のデータでは、

日本タンポポは8%と数年後にはなくなってしまうような数で、この人の切実な訴えは物言えぬ日本タンポポの想いを代弁する悲痛な叫びのように私の心に突き刺さるものでした。タンポポについて知識のない私は痛みだけが心に残りましたが、日本タンポポの情報を聞き見に行つたところ、そこに咲いている日本タンポポの美しさに感激し、見分け方を教わり、関心が尚一層深まりました。

公民館、福祉ひろばの前に見本が植えられていますので、ぜひ、内田地区の多くの皆さんに関心を持って頂きたいと思います。

第五町会 丸山隆三

つれづれ編集記 熊が出た

現在勤めている職場の親子遠足を、国営公園大町・松川地区で計画していたが、数日前になつて熊が出て危険だという連絡が先方より入り、急遽目的地を変更した。

三年前まで勤務していた島々の職場では、熊が出たという話は度々あった。神社の境内に寝ていたり国道脇の通学路を歩いたりしていた。この時はさすがに危険を感じ、一人で朝早くから通学路沿いの下草刈りに汗を流し、松本の地震にも気づかないほどであった。最後の職場は島立。松本市の中心部に位置する島立小の校庭にイノシシが現れたのには驚いた。

ここからほど近い開明小や西部公民館周辺に熊が出たのも、まだ記憶に新しい。昭和四十年頃までは、山の高い所も桑畑にするなど、人間がケモノの領域を侵していたように思う。しかし今はその畑も林や荒地となり逆にケモノが人の領域に攻め入ってきたように感じる。私は山登りで熊除けの鈴をジャラジャラ鳴らしながら登るが、人間世界に侵入してくるケモノたちと、どう折り合いをつけるか、けっこう悩ましい問題だと思う。

第五町会 丸山宇一